

農村整備事業
県営中山間地域総合整備事業 茂木北部地区
(平成22年3月完成)

1. 事業概要

茂木北部地区は茂木町北部に位置し、清流那珂川を挟む棚田や畑地帯が広がる豊かな自然環境の地域であるものの、農業生産条件等が不利で、農業生産基盤及び農村生活環境基盤の整備水準が平地に比べて低いため、以下の整備を行った。

事業名	県営中山間地域総合整備事業
事業主体	栃木県
事業箇所	茂木町
受益面積	72.2ha
受益者数	352人
整備内容	ほ場整備 20.6ha (2地区) 暗渠排水 0.9ha (1地区) 用排水路工 2.5km (4地区) 農道工 6.5km (8地区) 集落道 3.9km (4地区) 活性化施設 1カ所 集落防災安全施設 20基 (防犯灯)
総事業費	16.0億円
事業期間	平成14年度～平成21年度



※詳細位置図について別途添付

【ほ場整備】



事業実施前 (牧野地区：畑地)



事業実施後 (牧野地区)



事業実施前 (牧野大藤地区：水田)



事業実施後 (牧野大藤地区)

2. 事業の目的

本地区は用排水路やほ場が未整備であることに加え、農業従事者の高齢化や後継者不足も相まって農地の荒廃が著しい状態であった。

このため、町が策定する地域活性化構想に基づき、農業生産基盤整備、農村生活環境基盤整備を総合的に行い、営農の効率化及び農村環境の改善を通して、地域活性化を図る。

3. 事業の整備効果等

(1) 事業費等の変化

項目	事業採択時	事業完成時	増減
受益面積	65.7ha	72.2ha	6.5ha
総事業費	18.2億円	16.0億円	△2.2億円
工期	H14～H18	H14～H21	

受益面積の増については、用排水路工の路線追加によるもの。
総事業費の減については、ほ場整備の施工除外要望による整備面積の減や農道、集落道の延長減によるもの。

受益面積の変化

受益面積	事業採択時(ha)	事業完成時(ha)
ほ場整備	23.6(重複23.6)	20.6(重複20.6)
暗渠排水	2.7	0.9
用排水路工	11.5	19.1
農道工	53.5(重複2.0)	52.1
合計	65.7	72.2

(2) 営農の効率化

① 労働時間の短縮

ほ場整備（牧野大藤地区）の実施により、農地の区画形状が改善され、より高規格な機械の導入が可能となり、労働時間が65%短縮された。

② 維持管理の軽減

用排水路工、農道工の実施により、水路の掘ざらいや草刈りなどの作業が容易になり、施設維持管理にかかる労力が67%軽減された。

③ 耕地利用率の向上

ほ場整備実施の2地区（牧野地区・牧野大藤地区）では、農地条件が改善されたことで、耕作放棄地の解消が図られた。

④ 適切な水管理

用水路と排水路が分離・装工されたことで、合理的な水管理が可能となり、用水の安定供給と、降雨時の溢水など排水不良の解消が図られた。

⑤ 利便性の向上

集落道を整備したことにより、集落間のアクセス手段が改善され、通勤・通学など日常生活の利便性と、災害時の集落孤立化防止が図られるなど地域の安全性が向上した。



集落道整備前（山内地区）



集落道整備後（山内地区）

（3）地域の活性化

牧野地区（畑地）では、事業を契機に「農事組合法人そばの里まぎの」が設立され、地域農業の担い手として、そばの大規模営農が行われるようになった。

また、法人によるそばを活用した「そばオーナー制度」も始まり、整備された活性化施設が地域活動拠点のみならず、都市と農村との交流拠点として積極的に活用されている。

- ◆「農事組合法人そばの里まぎの」の農業経営状況
（作目）そば：18ha、六条大麦：5ha、黒豆：1ha（平成26年度）
- ◆そばオーナー組数 33組・108人（平成26年度）



農事組合法人の設立



そばの作付け状況



活性化施設（牧野地区：左）
※右は併設された農村レストラン



そばオーナーとの交流会

4. 事業により整備された施設の管理状況

用排水路工や、農道、集落道、活性化施設は、茂木町が管理者となっている。

日常の維持管理については、地域受益者による水路の掘りざらいや道路の草刈りが定期的に行われるなど、地域と一体となった適切な管理がなされている。



受益者による掘りざらい作業



受益者による草刈り作業

5. 事業実施による環境の変化

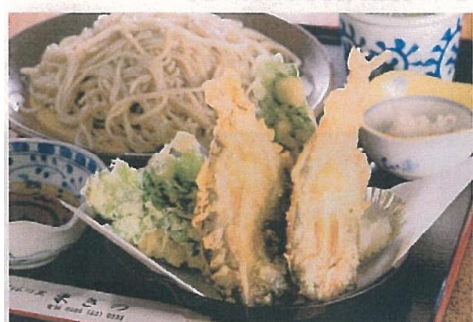
活性化施設に併設された農村レストランでは、「農事組合法人そばの里まぎの」による地元産のそばを使用した、多彩なメニューの提供が好評を得ており、また、そばを利用した加工品も製造販売されるなど、地域活性化の一翼を担っている。

また、整備されたほ場では、農地条件が改善されたことで土地の貸借が容易になり、新規参入者（3名）によるトマトやアスパラ等の栽培も行われるようになった。

◆「農村レストランそばの里まぎの」の経営状況

年間来客数 37,000人

年間販売額 4,012万円（平成26年度）



地元産そば



そばを利用した加工品

6. 地域住民からの主な意見

【ほ場整備】

- ・農地の区画拡大や作業道が整備され、より大きな機械で作業ができるようになった。
- ・用水の管理がしやすくなり、計画的に作付けができるようになった。
- ・土手の形状が良くなり、草刈りがしやすくなった。
- ・耕作放棄状態になっていた土地も作付け出来るようになった。
- ・農地の貸し借りがしやすくなった。

【用排水路工】

- ・水管理、草刈り、堀ざらいの労力が軽減した。
- ・用水の管理がしやすくなり、計画的に作付け及び農作業ができる。
- ・降雨時の溢水や排水不良も無くなった。

【農道工】

- ・農道が舗装され、農作業機械の移動が楽になった。
- ・自宅から水田に行きやすくなった。

【集落道】

- ・ 日常生活の利便性及び農作業の効率が向上した。
- ・ 隣の集落へ行きやすくなった。
- ・ 道幅も広くなりガードレールも設置され安全に走行できるようになった。
- ・ 道路舗装により、ほこりが立たなくなった。

【活性化施設】

- ・ そば打ち体験を通じた都市住民との交流が、楽しみになった。
- ・ 農事組合法人の集まりに利用しており、とても便利だ。

【集落防災安全施設】

- ・ 夕方、通りが明るくなり通行の安全が確保された。

7. 今後の課題等

- ・ 活性化施設や隣接する農村レストランを核にした、地域資源の活用や都市住民との交流が継続的に行われるよう、地域活動の展開を検討していく。
- ・ 地域住民の高齢化が進む中、地域活動を継続していくためには、将来を担う若い人材を地域に呼び込み、育成していく必要がある。

(参考)

「農事組合法人そばの里まぎの」の主な受賞歴

- ・ 食料・農業・農村推進本部（本部長：小泉純一郎内閣総理大臣）による「立ち上がる農山漁村」に選定（平成16年度）
- ・ とちぎ地産地消夢大賞 一般部門大賞受賞（平成23年度）



「立ち上がる農山漁村」選定証



とちぎ地産地消夢大賞 受賞盾

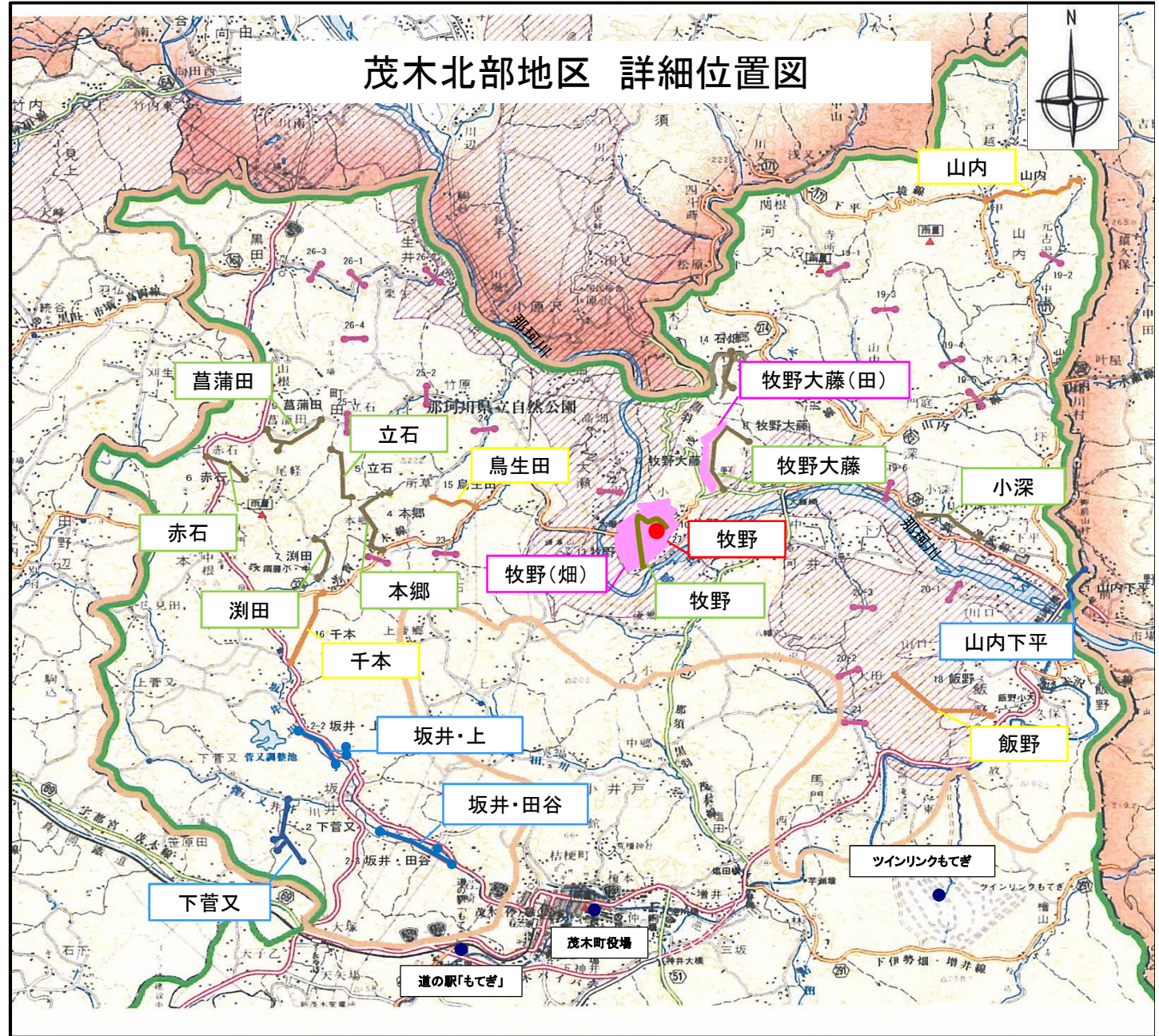
栃木県農政部農村振興課

TEL : 028-623-2334 FAX : 028-623-2337

HP : <http://www.pref.tochigi.lg.jp/>

E-mail : noson-sinko@pref.tochigi.lg.jp





凡例	
生産基盤整備	 ほ場整備
	 用排水路工
	 農道工
生活環境整備	 集落道
	 活性化施設
	 集落防災安全施設 (防犯灯)